

大学等の就職動向調査

平成 28 年 10 月

盛岡市企画調整課

調査結果の概要

1 県内就職率（県内就職者/就職者総数）の推移

区分	H26	H27	H28
大学等(COC+参加校)	46.9%	46.8%	47.4%
専門学校	60.1%	59.9%	57.3%

※1 表示年は、年次。

※2 COC+参加校の数字は、年次表記及び盛岡大短大を加えたことから、COC+公表数値とは一致しない。

2 県外に就職する分野

《大学等》

工学部，ソフトウェア情報学部，農学部などの学生が，首都圏等で就職している。

《専門学校》

調理師，理美容師，情報関係など，いわゆるジョブ型の職種は，首都圏等で就職する傾向がある。

3 県外に就職する主な理由（ヒアリングによる就職担当者の主観）

(1) 待遇面

ア 県内の賃金（給料）が低い

記入式で最も多かった回答であるが，ヒアリングを通じて，単に賃金（給料）の比較ではなく，背景に「一人暮らしへの憧れ」と「奨学金の返済」を加味して県外の就職先を選択している。

このことから，「一人暮らし」をあきらめ地元就職するパターンと，「一人暮らし」を成就するため首都圏等に就職するパターンに二分される。

※ 大学等では，学生の5～6割が，専門学校では概ね5割が奨学金を利用して
いる。

イ 寮があること，住宅手当があること

学生が就職先を選択する上で重要な要素となっている。

経済的負担が少ないことや一人暮らしを成就するためと考えられる。

また，保育士などでは，住宅手当の支給が判断材料となっている。（県内は自宅からの通勤前提の求人が多く，住宅手当てなしが多い）

(2) 就職先

ア 県内には希望する就職先（職種）がない

単に希望の就職先（職種）がないのではなく、定期的な雇用により先輩が就職している状況や大手・安定志向が背景にあると考えられる。

また、県内には大卒者の就職の受け皿が少ないこと、専門学校では、デザイン業など個人経営（事務所）が多いため就職がないことなどが、背景にある。

※ 工学・情報系，デザイン，ホテル・ブライダル業，調理師，理美容師は，県外就職が顕著。

(3) 採用関連

- ・ 大学等や専門学校では，企業から直接学校に求人票が届くため，インターネット（リクナビ，マイナビ）を活用する学生は少ない。直接，企業と学校がつながるため，双方の担当者の連携などがあり，就職に対する安心感につながっている。（県外企業は熱心である）
- ・ 医療（看護師）関係では，学生の希望が総合病院に集中する傾向があり，個人病院等の場合は概ね欠員補充が中心で，学生の希望する就職時期とのマッチングができていない。

1 きっかけ

9/20 の人口対策本部会議において、議論の中で質疑のあったもののうち、次の事項について、今秋調査実施することを回答した。

- (1) 「大学卒業生の地元就職率」及び「20歳～29歳までの人口移動数」に関し、若者の流出超過について、大学の就職率のみとなっているが、この世代には専門学校生等もいることから分析（実数把握）を深める必要があるのではないか。
- (2) また、(1)における流出の理由等を分析し、対策をとる必要があるのではないか。
- (3) 就職後3年以内の離職率が45～46%というデータもあり、全国的なものではあるが、厚労省調査では「保育士、福祉、介護」の離職が顕著である。この職種の流出につながっているとも考えられる。

2 調査について

- (1) 実数把握については、COC+資料による県内就職者/就職者（学卒者）のみのため、学部・学科別、男女別を調査する。
また、数値把握のない専門学校を調査対象とし、大学等と同様に行う。
- (2) 「流出の理由」について、(1)と併せて行う。
- (3) 離職後の個人の追跡調査は困難であることから、岩手県立大学との共同研究により行うこととする。（現在、提案・調整中）

3 課題

- ・ 次回の人口対策本部会議で報告するため、分析を行う前段階の調査期間が短期間である。
- ・ 専門学校は、県内の多くが盛岡市に存在するため、全校を調査するために時間を要する。
- ・ 就職時の転出理由について、学校において統計があるとは限らないため、就職担当の主観による回答を求めることが想定される。このため、学校訪問が必要となる。

4 課題に対する対応

- ・ 学校訪問や調査時間の短縮及び今回の調査が傾向把握を目的としたいことから、盛岡市近隣の学校への抽出調査とする。
- ・ 「保育士、福祉、介護」の分野の就職時の転出理由等を分析するため、関係する学科を有する法人を調査対象とする。⇒抽出調査のため、1法人あたり複数の専門学校を運営する法人を優先する。

5 調査方法

- (1) COC+参加校

任意様式により、次の属性を調査する。

- ・年別卒業生数（H26年，H27年，H28年。各年は卒業年）
- ・年別就職者の動向について（H26年，H27年，H28年。各年とも(1)の卒業生）
 - ⇒学部，学科別就職者数
 - ⇒男女別就職者数
 - ⇒産業（業種別）就職者数
 - ⇒県内・県外別就職者数

(2) 専門学校

調査票A（学校基本調査をベースに県内外，男女別の属性を追加）

(3) 各校共通

各校を訪問し，県外就職の主な理由を就職実務担当者にヒアリング調査を行う。

6 調査対象校

- (1) COC+参加校（8校）…岩手大，岩手県立大，同盛岡短大，同宮古短大，盛岡大，同短大，富士大，一関高専
- (2) 専門学校（13校）…岩手看護専門学校，岩手看護高等専修学校，盛岡社会福祉専門学校，菜園調理師専門学校，岩手公務員専門学校，北日本医療福祉専門学校，北日本ハイテクニカルクッキングカレッジ，北日本ヘアスタイリスト専門学校，盛岡医療福祉専門学校，盛岡カレッジオブビジネス，盛岡情報ビジネス専門学校，盛岡公務員法律専門学校，盛岡ペットワールド専門学校

7 調査期間

- (1) 5の(1)及び(2)は，平成28年10月20日（木）までに電子メールによる回答を依頼する。
- (2) 5の(3)は，各校と日程調整の上，実施する。

大学等の就職動向調査【専門学校編】

1 就職者数（率）の推移

1-1 就職者数（率）の推移（総数）

調査を実施した専門学校の卒業生数、就職者数はともに減少しているものの、就職率（卒業した者のうち就職した者）は80%台後半を維持しており、特に女性の就職率が高い。

女性の割合が高くなっているが、専門学校における医療・福祉分野や動物分野、ホテル・ブライダル関係の女性の在籍が多いことが影響している。

表1 卒業生数、就職者数(率)の推移 【単位：人】

	H26			H27			H28		
	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女
卒業生数	1,523	681	842	1,498	664	834	1,383	622	761
就職者数	1,348	604	744	1,331	580	751	1,220	543	677
就職率(就職者/卒業生)	88.5%	88.7%	88.4%	88.9%	87.3%	90.0%	88.2%	87.3%	89.0%

※ 各年は、年次

1-2 県内県外別、男女別就職者数（率）の推移

就職者のうち県内就職者数は、H26の810人(60.1%)からH28の699人(57.3%)と減少の傾向となっている。就職者数(総数)の減少が県内就職者数の減少と比例しているものの、県内就職率の減少が顕著であり、就職者の県外流出の傾向が分かる。

これに対し、県外就職者数は横ばいであり、総数の減少の影響を受けておらず、県外就職率は、年々増加していることが分かる。

表2 県内県外別、男女別就職者数(率)の推移 【単位：人、%】

	H26		H27		H28	
	就職者数	就職率	就職者数	就職率	就職者数	就職率
総数	1,348	100	1,331	100	1,220	100
県内就職者数	810	60.1%	797	59.9%	699	57.3%
県内(男)	339	25.1%	312	23.4%	283	23.2%
県内(女)	471	34.9%	485	36.4%	416	34.1%
県外就職者数	538	39.9%	534	40.1%	521	42.7%
県外(男)	265	19.7%	268	20.1%	260	21.3%
県外(女)	273	20.3%	266	20.0%	261	21.4%

※ 各年は、年次

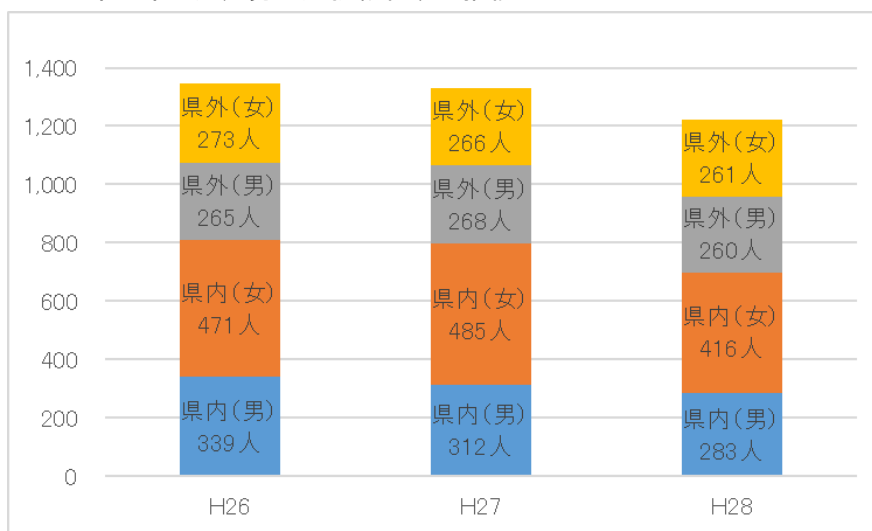
2 県内県外別，男女別就職者数の状況

2-1 県内県外別，男女別就職者数の推移

県内県外別，男女別就職者数の推移（H26～H28）を見ると，全体では減少の傾向にある。

しかし，県外就職者は男女とも微減であるのに対し，県内就職者は男女ともに大きく減少しており，特に女性の減少が顕著である。

図1 県内県外別，男女別就職者数の推移



2-2 県内県外別，男女別就職者数の構成の推移

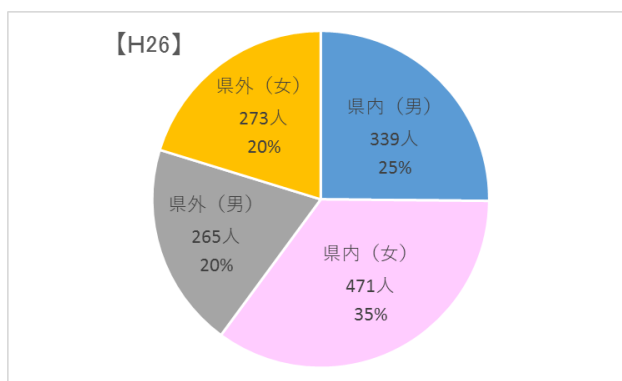
各年の就職者における県内県外別，男女別の構成比は次のとおり。

【H26】

県内就職は60%，県外就職者は40%となっている。

男女別では，男性は県内就職が県外就に対して5ポイント高いが，ほぼ同じ割合であるのに対し，女性は県内就職が県外就職に対して15ポイント高く，地元志向が強いと考えられる。

図2 県内県外別，男女別の構成比（H26）

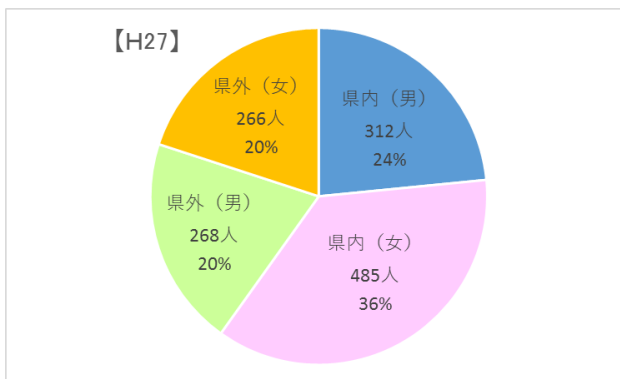


【H27】

県内就職は60%、県外就職者は40%となっている。

男女別では、男性は県内就職が県外就に対して4ポイント高いが、ほぼ同じ割合であるのに対し、女性は県内就職が県外就職に対して16ポイント高く、地元志向が更に強まったと考えられる。

図3 県内県外別、男女別の構成比（H27）

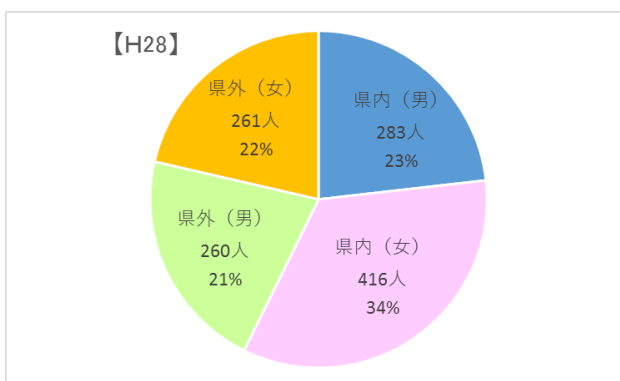


【H28】

県内就職は57%、県外就職者は43%で、過去2年と比較すると県外就職の動向が強まっている。

男女別では、男性は県内就職が県外就に対して2ポイント増、女性は県内就職が県外就職に対して12ポイント増と、男女とも県外就職への傾向が強まっていることが分かる。

図4 県内県外別、男女別の構成比（H28）



3 就職先（業種）別の就職動向

専門学校の就職先（業種）別の就職動向は、学校基本調査の調査事項を用いて、学科ごとに関連分野、関連分野以外の就職状況を調査したものである。

【属性】

- 医療・福祉
- 衛生（調理師・理美容師）
- 商業実務
- 情報
- その他（公務・動物など）

専門学校の県全体（H27 学校基本調査結果）では、学校数は61.1%（22校／36校）が、卒業生数では84.1%（2,207人／2,625人）が、本市に所在・卒業している。

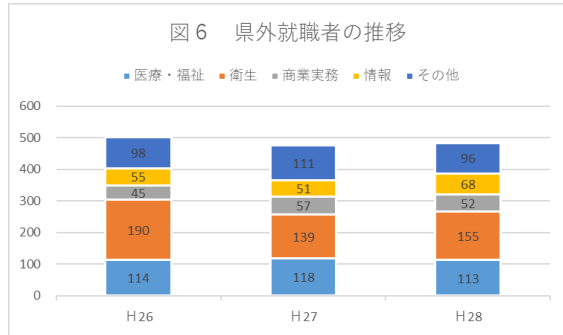
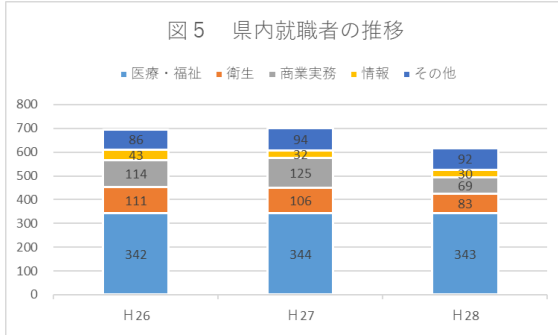
今回調査における就職先（業種）別の就職動向を見ると、就職者の9割が学科の関連分野に就職している。

表3 関連分野・関連分野別就職状況 【単位：人】

	H26	H27	H28
関連分野	1,198	1,177	1,101
医療・福祉	456	462	456
衛生	301	245	238
商業実務	159	182	121
情報	98	83	98
その他	184	205	188
関連分野以外	150	154	119
医療・福祉	10	12	6
衛生	0	1	1
商業実務	30	36	23
情報	65	43	39
その他	45	62	50
合計	1,348	1,331	1,220

3-1 関連分野への就職先（業種）別の就職動向（県内県外別）

関連分野への就職先（業種）別の就職動向を県内県外別に見ると、「医療・福祉」及び「その他」は県内県外とも横ばいの推移している。「衛生」及び「情報」は県外就職が県内就職を上回っており、県外就職が増加している。「商業実務」は県内就職が減少傾向にあるものの県外就職は増加傾向にある。



3-2 関連分野（県外）への就職先（業種）別の就職動向（男女別）

県外への就職が特徴として表れている「衛生」及び「情報」のH28の男女別構成は、次のとおり。

「衛生」では、県外就職者数が全体の65%を占めており、特に女性の39%が最も多くなっている。

「情報」では、県外就職者数が全体の69%を占めており、特に男性の64%が最も多くなっている。

図7 「衛生」の構成比（H28）

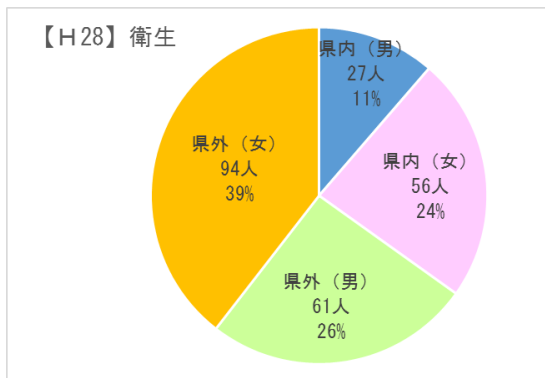
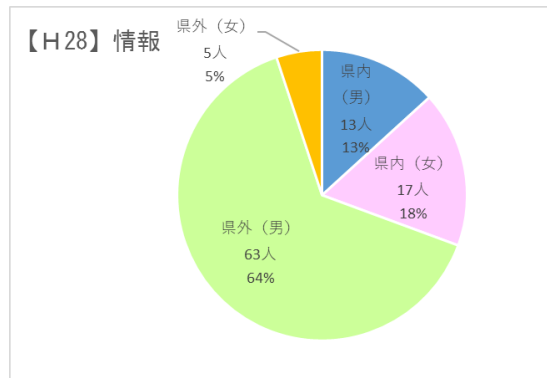


図8 「情報」の構成比（H28）



4 県外就職の主な理由

4-1 記入式による調査

記入式により、就職担当部署（者）が回答した県外就職の主な理由を見ると、給料など「待遇」に関する理由が10件（25%）と最も多く、次いで、希望する就職先が県内がないなど「就職先」に関する理由、県外出身者が地元に戻り就職する「出身地就職」に

関する理由がそれぞれ7件（17%）、身のスキルアップを目指す「スキルアップ」に関する理由5件（10%）となっている。

図9 「県外就職の主な理由」の構成比

この他、都会や一人暮らしへの「憧れ」、家族が県外で就職している、奨学金をかえしたいなど「その他」に関する理由となっている。

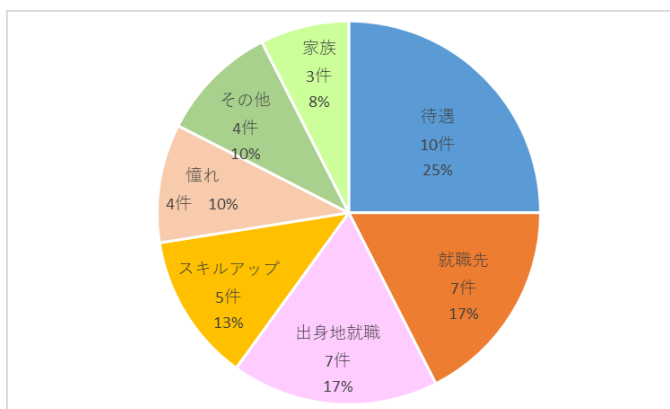


表4 県外就職の主な理由

分類	理由
待遇	関東圏の病院（教育体制の充実、給与など）に魅力を感じたため
待遇	賃金が高い/キャリアプランの充実
待遇	研修や教育訓練制度が整い充実している、キャリアステップのルートが明確である、職員へのケアが充実している
待遇	賃金が低い
待遇	首都圏を希望する場合は賃金で選ぶケースが多い。
待遇	親元を離れ、自立したかったため（地元より賃金が高く、一人暮らしができる）
待遇	賃金が低い
待遇	賃金が高い
待遇	海外研修がある
待遇	寮がある
就職先	希望する病院に就職できなかったため
就職先	専門分野で学んだことを生かせる企業が多い
就職先	インターンシップ先で魅力を感じた
就職先	仕事の内容に魅力がある
就職先	希望職種が県外にしか無い
就職先	循環器などより専門性の高い総合病院に就職したかったため
就職先	希望する企業が少ない（カフェ、レストランが少ない、雇用がない）。
出身地就職	県外出身学生が、出身地に戻り就職を希望したため
出身地就職	県が気から入学したため地元に戻った
出身地就職	県外出身者（主に秋田県・青森県）が地元に戻るため

出身地就職	在校生に青森・秋田出身者が多いため、本人にしてみれば地元就職となる。
出身地就職	地元へ帰っての就職を希望
出身地就職	県外から就職している学生が、地元に戻る（青森、秋田など）
出身地就職	もともと実家が県外にあり、実家に戻るため。
スキルアップ	最新の技術・知識が仕事を通して得られるため（首都圏）
スキルアップ	それぞれが目指す業界の最先端企業で成長したい
スキルアップ	関東で、技術を磨きたい
スキルアップ	勉強できる環境がある
スキルアップ	技術を身につけて自分を高めていきたい。様々な経験をしたい。
憧れ	都会への憧れ（同職種の賃金格差）
憧れ	県外に就職したい、都会で生活したい
憧れ	関東で暮らしてみたい。
憧れ	親元を離れて暮らしてみたい。
その他	将来の事を考え上場企業への就職を希望
その他	県内よりも求人（採用）が早い
その他	企業研究、自治体研究の結果、県外企業、自治体の就職を希望したため。
その他	奨学金を早く返したい。
家族	家族（身内）が県外で働いているため
家族	家庭の事情
家族	地域より、職種・企業を重視している（保護者の理解の得られた就職活動）

4-2 訪問によるヒアリング調査

記入式では、回答の背景が不明であるため、就職担当者の主観（学生からの相談等）に基づく、ヒアリング調査を実施した。そこから次のようなことが、窺える。

《就職に対する地元志向について》

- 学科によりばらつきはあるものの、総じて「地元就職」への志向が強い。
特に「ビジネス」、「デザイン」、「女性」のキーワード、そして現在の売り手市場も相まって、地元志向が強いと感じている。
- 特定の分野（情報、ホテル・ブライダル、調理師、理美容師など）は、就職者の半数以上、分野によってはほとんどが、県外へ就職している状況である。

《県外に就職する主な理由（待遇）》

- 賃金が低い（県内）＝賃金が高い（首都圏など）が大きな要因として挙げられている。しかし、学生は「一人暮らしへの憧れ」と「奨学金の返済」（専門学校生の概ね半数が利用している）を基に就職先を選択しているのが実態である。

この結果、経済的理由（一人暮らしをあきらめる、奨学金返済のため）により地元就職（希望職種以外を含む。）をするパターンと賃金の高い首都圏へ就職するパターンに2分される。

- 賃金は大きな要素だが、最重要視まではしておらず、上記の憧れ等を成就するために、「寮の有無」、「住宅手当の有無と額」、「休み」を総合的に判断の材料としている傾向がある。
- 就職先の選択に当たり、非正規採用や契約社員の求人は避ける傾向にある。
ただし、医療事務の場合は、総合病院の採用が県内にはほとんどないため、首都圏の総合病院や有名病院等に就職する、また、ニチイ学館の正規雇用により就職希望を満たす例が存在する。

《医療・福祉関係について》

- 保育士については、県内の給与水準の低さ（改善傾向にあるとの意見多数）に対する首都圏の給与水準及び寮、または住居手当の充実が、県外就職への大きな要因となっている。
- 介護福祉士は県内就職がほとんどである一方、柔道整復師はスポーツ関連など県外就職を目指す学生が多い。また、高卒（無資格）の離職率が非常に高い。
- 看護関係は、求人が総合病院系しかないこと、欠員補充がメインであることから、学生が望む時期に求人がないことがあり、地元就職希望であったとしても内定済みの県外へ出ることもある。

《その他》

- スキルアップなどを目指し首都圏へ就職した者もUターン願望は強い。都会で培ったスキルを岩手で生かすことができるような環境づくりが必要である。
- 求人（採用）側の熱意などは、県外の方が一生懸命であり、就職後のフォローも充実している場合が多い。
- 専門学校に直接求人が届くため、マイナビやリクナビを見ている学生は少ないと考えられる。また、転職やUターンの学生が就職相談や求人票を見に訪れる場合もある。
- 奨学金について、ほぼ半数の学生が利用しており、就職にはその償還が付随することから、手当が必要である。
- 就職の決定の確実なパターンは、先輩が既に就職していること。（相談や企業の情報聞けるため、給与以上に大きな影響を与える。）

◆訪問調査の結果について

質問1 近年、学生の就職の地元志向は強まっていますか。

横ばい ここ数年では、概ね横ばいである。
 強い 入学時から地元志向が非常に高い。
 強い 「ビジネス」「デザイン」「女性」のキーワードで、地元への志向が強い。
 強い 出身地による地元志向が強い。
 強い 県外出身者は1割程度。県内出身者の地元志向が強い。
 学科による 総合ビジネス(簿記・FP)やホテル・ブライダル(全入学者の半数)は、6割が県外へ
 横ばい 出身地割合は、県内・県外半々だが、入学者の8割は岩手で就職。
 強い 入学時から地元志向が非常に高い。
 強い 県外出身者は、入学時、全体1/3~1/2だが、就職時は8割が岩手で就職
 実習などから、地元貢献意欲が強くなる傾向がある。

質問2 首都圏等就職時に転出する主な理由は、どういったものがありますか。

待遇 賃金、休み、寮が完備、自分将来像と合致
 出身地への回帰 県外出身者が多く、出身地へ帰ることから、ある意味「地元就職」となっている。
 スキルアップ 調理師・理容師は、入学時から首都圏で腕を磨くことを意識している学生が多い。
 就職先 カフェやレストランなどの就職口が少なく、事業所規模や人口の多い首都圏に出る傾向がある。
 就職先 地元の就職口が少ないため、地元就職できないと首都圏へ向かう。
 採用時期 地元志望であっても、時期の早い民間内定後、公務員は受験しないため首都圏へ向かう。
 待遇 賃金
 就職先 県内に学生が理想とする仕事を有する企業が少ない。
 就職先 デザインやシステム系は、個人事業などから働く場(求人)が少ない。
 出身地への回帰 入学者の1/3は青森・秋田のため、就職時は地元に戻る。
 待遇 給料は第一条件ではないが、一人暮らしをし奨学金を返済するためには、首都圏の待遇が魅力
 都会への憧れ 仕事や生活に根ざしたのではなく、漠然としたもの。趣味や有名人の存在。東京中心ではなく、周辺部を希望する傾向がある。
 待遇 給料。県内では、基本給を低く設定し、手当てで増している例があり、敬遠される。
 就職先 県内の募集が少ない。(ホテル・ブライダル業)
 就職先 企業の魅力について、県外の企業が高い。(ホテル・ブライダル業)
 スキルアップ 入学時に首都圏での就職を目標とする学生が多い。
 待遇 給料や寮がベンチマークとなる。関東は、賃金が上昇傾向にある。
 保護者の意向 飲食業界は個人経営が多いため、社会保険の有無も影響する。
 待遇 契約社員の場合は、避ける傾向がある。
 就職先 病院や保育所などの施設は県内が多いが、給食センターは県外へ(就職口が少ない)
 就職先 公務員を併願する学生が多いため、内定により県内か県外かが左右される。
 待遇 賃金、寮を重要視している。
 スキルアップ 専門的なスキルを身に付けようと、総合病院や有名な病院を目指す。(岩手では医療事務の総合病院採用はない)
 都会への憧れ 漠然とした憧れや彼女、彼氏の存在

質問3 保育士など福祉関係職の動向は、いかがですか。

介護福祉士 介護職は、首都圏が最先端というわけではないため、ほとんどが県内就職である。
 保育士・介護福祉士 保育職・介護職は、人手不足の状況である。
 待遇 盛岡で働きたいが、待遇が…という学生の声が多い。
 スキルアップ 柔道整復学科の学生は、盛岡でできない仕事(スポーツ系)を目指し、首都圏へ就職する傾向がある。
 就職先 配属先とは別に、公務員でも福祉部局を目指す学生が多い。
 就職先 地元で定期雇用(求人)がない場合が多い。
 就職先 求人が欠員補充の場合が多く、学生の求める時期とマッチングしないこともあり、意向とは異なり県外に出る場合がある。
 待遇 神奈川県の賃金が一番高く、中部圏は思ったほど高くはない。

質問4 その他所感

施策要望 都会で技術を身に付けた若者でUターン希望者が多いこともあり、地元で技術を生かせるようUターンの窓口(受け皿)が必要である。
 就職先 公務員以外の場合、地元志向の高まりから、民間企業でも公共的民間企業(JRなど)にスライドする傾向がある。
 インターンシップ 民間や首都圏でも実施している。
 県外学生 入学し、盛岡に住んでみて、交通の便や自然環境の良さを実感し、定着する学生がいる。
 独自の取組 法人(龍澤学館)傘下の学校で、地域リーダーの育成に取り組んでいる。
 施策要望 県や市町村が一体となり、分析や取組を進める環境をつくってほしい。
 独自の取組 北東北で1校という優位性から、仙台ではなく本校を目指し入学した学生は、出身地に就職する。
 求人状況 求人>学生、全国から求人があり、業界が慢性的な人手不足である。
 施策要望 Uターン者も多く、岩手で活躍できるフィールドを創出する必要がある。
 就職先 企業も採用スキルや採用人材の育成が必要。県外の企業は質が高く、安心感を持てる。
 求人状況 求人は、直接学校に来るので、マイナビやリクナビを見る学生は少ない。
 保護者の意向 県内就職に対する保護者の意向が強い。
 就職先 県外の方が、採用に意欲があり、就職後のフォローもしっかりとしている。
 就職先 個人医院を中心に即戦力を求める傾向があり、育てていこうという考え方が少ないのではないか。

大学等の就職動向調査【大学等（COC+）編】

1 就職者数（率）の推移

1-1 就職者数（率）の推移（総数）

調査を実施した大学等（COC+）の卒業者数は減少している一方、就職者数は増加している。職率（卒業した者のうち就職した者）は、H26の70.6%からH28には76.1%と5.5ポイント増加している。

※ 数値は年次把握、また盛岡大の短大を調査対象としたことから、COC+が公表している数値とは異なる。

表1 卒業者数，就職者数(率)の推移 【単位：人】

	H26	H27	H28
卒業者数	2,765	2,747	2,693
就職者数	1,928	1,988	2,031
就職率(就職者/卒業者)	69.7%	72.4%	75.4%

※ 各年は、年次

1-2 県内県外別就職者数（率）の推移

就職者のうち県内就職者数は、H26の905人（46.4%）からH28の962人（46.9%）と増加の傾向となっている。就職者数（総数）、県内就職者数及び県外就職者数ともに増加しており、就職率では若干であるが県内就職率が増加の傾向にある。

これは、COC+の取組のほか、就職の地元志向の高まりや県内求人への好調などが要因と考えられる。

表2 県内県外別，男女別就職者数(率)の推移 【単位：人，%】

	H26		H27		H28	
	就職者数	就職率	就職者数	就職率	就職者数	就職率
総数	1,928	100	1,988	100	2,031	100
県内就職者数	905	46.9%	930	46.8%	962	47.4%
県外就職者数	1,023	53.1%	1,058	53.2%	1,069	52.6%

※ 各年は、年次

1-3 学部別，県内県外別就職者数（率）

各校の学部別の県内・県外就職状況をH28とH26比較で見ると、大学では、岩手大は教育学部を除いた3学部で県内就職者（率）とも減少、岩手県立大、富士大、盛岡大は

すべての学部で県内就職者（率）とも増加している。また短大・高専では、県立盛岡短大は県内就職者数が横ばいの一方、県内就職率は減少、県立宮古短大は県内就職者（率）とも増加、盛岡大短大、一関高専は県内就職者（率）とも減少となっている。

県内就職率が低い学部の就職先動向を見ると、岩手大（工学部）は、全体の42.5%が東京都（52人）と宮城県（38人）に就職している。岩手大（農学部）は、全体の30.3%が宮城県（25人）と東京都（21人）に就職している。

表3 学部別、県内県外就職者数（H28）

【大学】 【単位：人、%】

	岩手大				岩手県立大				富士大	盛岡大	
	人文社会科学	教育	工学	農学	看護	社会福祉	ソフトウェア情報	総合政策	経済	文学	栄養科学
県内就職者数	80	95	71	32	46	51	28	61	36	182	65
〃 就職者率	44.0%	51.4%	33.5%	21.1%	51.7%	51.0%	25.5%	54.5%	24.7%	65.7%	80.2%
県外就職者数	102	90	141	120	43	49	82	51	110	95	16
〃 就職者率	56.0%	48.6%	66.5%	78.9%	48.3%	49.0%	74.5%	45.5%	75.3%	34.3%	19.8%

【短大・高専】

	県立盛岡短大	県立宮古短大	盛岡大短大	一関高専
県内就職者数	45	47	109	14
〃 就職者率	61.6%	62.7%	74.1%	15.6%
県外就職者数	28	28	38	76
〃 就職者率	38.4%	37.3%	25.9%	84.4%

表4 学部別、県内県外就職者数（H26）

【大学】 【単位：人、%】

	岩手大				岩手県立大				富士大	盛岡大	
	人文社会科学	教育	工学	農学	看護	社会福祉	ソフトウェア情報	総合政策	経済	文学	栄養科学
県内就職者数	95	91	67	37	36	40	19	36	63	152	52
〃 就職者率	50.5%	50.0%	37.9%	27.6%	41.4%	44.0%	20.4%	40.9%	39.4%	55.7%	61.2%
県外就職者数	93	91	110	97	51	51	74	52	97	121	33
〃 就職者率	49.5%	50.0%	62.1%	72.4%	58.6%	56.0%	79.6%	59.1%	60.6%	44.3%	38.8%

【短大・高専】

	県立盛岡短大	県立宮古短大	盛岡大短大	一関高専
県内就職者数	45	39	111	22
〃 就職者率	70.3%	61.9%	77.1%	22.4%
県外就職者数	19	24	33	76
〃 就職者率	29.7%	38.1%	22.9%	77.6%

2 県外就職の主な理由（訪問によるヒアリング調査）

就職担当者の主観（学生からの相談等）に基づく、ヒアリング調査を実施した。そこから次のようなことが、窺える。

《就職に対する地元志向について》

- 年により上下はあるものの、数字から地元志向が強まっている。（県立大）
- 地元志向が非常に高く、他県出身学生も岩手県内へ就職している状況である。（盛岡大）

《県外に就職する主な理由（待遇）》

- 賃金が低い（県内）＝賃金が高い（首都圏など）が大きな要因として挙げられている。学生は「奨学金の返済」（学生の概ね6割が利用している）を前提としているため、より給与等待遇の面を優先している。
- 現在、有効求人倍率が高い状況だが、大卒の受け皿となる仕事が県内には少ない。
- 給与に関連し、一時金（ボーナス）の有無に大きく影響を受けている。

《県外に就職する主な理由（内定時期）》

- 県内は、定期求人が少ない。
- 首都圏の大手は内定を早く出すため、学生間に焦りが生じ、一番早い内定＝県外で決めてしまう場合が多い。
- 公務員志望者が多いが、内定時期が遅いため、民間の内定が出ると公務員をあきらめる傾向がある。（内定企業への義理等）

《医療・福祉関係について》

- 保育士については、処遇の面が一番大きい。給料、休み、寮の有無は必須である。
- 大分改善されていると思われるものの、保育士・介護福祉の関係は、新卒から非正規の状況であり、正規の口がある都市部に流れる傾向がある。
- 看護関係は、学生の希望する就職先が総合病院系であり、個人医院に就職する例はほとんどないことから、県内に就職できなければ都市部に就職する。
- 卒業生に対しアンケート調査を行ったところ、回収率 50%で、首都圏に就職した者のうち約3割がUターンしている結果となった。（県立大看護学部）

《その他》

- 保育士の奨学金補助（補填）制度について、国の制度があるのに盛岡はなぜ実施しないのか。（県内は花巻市が実施）
- インターンシップについて、現在大学が主体となって行っている（過去は労働局）が、県や広域など行政（市町村）が主体となって行うことはできないか。

◆訪問調査の結果について

質問1 近年、学生の就職の地元志向は強まっていますか。

年により上下するが、数字だけ見ると地元就職が高まっている傾向にある。
地元志向が非常に高く、他県出身学生も岩手県内へ就職している状況である。

質問2 首都圏等就職時に転出する主な理由は、どういったものがありますか。

待遇	賃金、休み、寮が完備、自分将来像と合致
待遇	県内の有効求人倍率が高いが、大卒の受け皿がない。
内定	県内は新規大卒の求人が毎年(定期)ではない。
内定	大手が内定を早く出すため、学生に焦りが生じる。そのため、最初の内定で決めてしまう。 県内は遅めのため、企業側も優秀な人材と判断しない例がある。
都会への憧れ 安定・大手志向	漠然としたものであり、生活や就職とリアルに考えていない。(そのため、就職活動中に県内へ変更する学生もある) 根強く残っている。
待遇	給料が一番(奨学金を返済する必要があるため。) ⇒ 奨学金は学生のおよそ6割が利用。
待遇	一時金(ボーナス)が低額だったり、なかったりする。

質問3 保育士など福祉関係職の動向は、いかがですか。

保育士	処遇の面が非常に大きい。(手当、休み、寮)
看護師	処遇(明らかに都会の方が良いため。)
	県内では、県医療局、医大、日赤、市立病院、友愛病院などで、個人病院への就職はほとんどない。
保育士・介護福祉士	大分、改善されたと言われているものの、新卒から非正規の状況であり、正規の口がある都市部に流れる。
保育士	求人票で、学生は賃金と「正規or非正規」を優先している。
保育士	初任給: 県内14~16万、住宅手当なし。県外21~23万、住宅手当あり。初任給で10万円の格差がある。

質問4 その他所感

看護師	卒業生にアンケートを実施した(回収率50%)ところ、県外に就職した約3割が地元に戻りたくていた。
採用時期	公務員志向が強いが、採用時期が遅いため、前倒しできないかを感じる。 時期を待てないため、内定した民間へ流れる状況がある。
インターンシップ 奨学金(保育士)	現在、大学が主導しているが、行政が主体となって実施できないか。 国の制度があるのに盛岡市はなぜ実施しないのか。広域、県内市町村の先導役の可能性が高い。